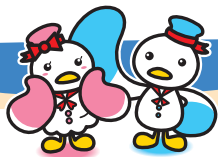


伝言板

No.39(R 5.4)



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

第 20 回理事会・通常総会……………1	みなとまち活性化イベントへの助成事業の募集について…………… 10
「北海道みなとの文化研究室」の発足について ……4	令和 5 年度 役員・事務局・支部体制…………… 12
第 17 回 みなと座談会……………6	事務局連絡方法…………… 12
北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港) ……8	
「着ぐるみ貸付事業」の紹介……………9	

第 20 回理事会・通常総会

第 20 回理事会・通常総会は、令和 5 年 2 月 15 日(水)ホテルライフオーブ札幌に於いて、コロナ禍ではありましたが感染対策のうえ開催しました。

理事会は定数 14 名の内、出席者 9 名(書面表決者 3 名)、通常総会の出席者は個人会員 170 名、団体会員 58 団体の内、委任状提出者を含めて 214 名の出席があり、会場には 70 名に出席していただきました。

通常総会に先立ち、NPO 法人栗林定正会長から「日頃から、わたくしどもの事業活動・事業運営に深いご理解とご協力を賜っていることに厚くお礼申し上げます。特に令和 4 年度の各事業にご協力をいただいた会員の方々に重ねてお礼申し上げます。本日はご来賓といたしまして、北海道開発局港湾空港部部長鈴木徹様に、ご多忙のところご臨席をいただいております。

鈴木部長様には常日頃から心のこもったご指導、ご支援を賜っております事に深く感謝申し上げますところであります。新型コロナウイルス感染症につきまして、まだまだ予断を許さない状況にありますが、政府方針により 5 月には 2 類等から 5 類へ、また 3 月からのマスク着脱の個人判断に伴い、今後は道内各港湾でのイベントなども再開され、当法人の活動機会も増えるものと思われまます。本通常総会では、令和 4 年度の事業報告と令和 5 年度の事業計画、役員を選任などについて、事務局から報告を受け皆様にご審議いただくことになっております。

むすびにあたり、本日ご出席の会員の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いするとともに今後のご健勝とご活躍をご祈念申し上げあげます。」と挨拶がありました。

ご来賓として出席していただきました、北海道開発局港湾空港部部長鈴木徹様からは「日頃より機構の皆様方には、港湾空港行政や北海道開発行政に様々な方面からご支援いただいていることにお礼申し上げます。事業計画にもありますとおり、非常に沢山の活動をなさっていて素晴らしいことと敬意を表したいと思ひます。大きくは港への理解、利用促進に係るような活動が一つの柱となつていますし、二つ目は防災・減災関係の活動もなつています。

また、調査研究にも取り組まれていますし、いろいろ助かっている方もいると思ひますが、助成活動で様々な地域の活動にもサポートいただひて、我々行政組織だけではできない事までやっていただひて、心強くありがたく思ひています。引き続き開発局とも連携をとつていただひながら活動を進めてい



理事会



会長挨拶



来賓挨拶



総会

ただけるようお願いしたい。新型コロナも少しずつ快方に向かっている感じですし、第一歩として北海道での Sea 級グルメ開催で、久しぶりに港での賑わいを復活させることができたことに、ご尽力いただいたお礼も申し上げて、これからはしっかり連携をとらせていただきたいと思います。」とご挨拶をいただきました。

通常総会は、眞田理事長を議長に選出して第1号議案から第5号議案まで審議され、下記のとおり承認されました。

第1号議案（令和4年度事業報告）

1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援並びに海洋及び港に係る教育、文化活動及び支援

(1) みなとサポート業務

「みなと見学会」等は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためすべて中止となりました。

(2) みなとパネル展

令和4年9月2日(金)「ザ・シンポジウムみなと in 室蘭」の開催に協賛して室蘭市市民会館で

開催され、脱炭素の取り組みを中心とした内容の展示を、シンポジウムに参加された多くの方にご覧いただきました。

(3) 広報誌「伝言板」の発刊

37号を令和4年4月、38号を令和4年11月に発刊しました。

(4) 着ぐるみ（「ぼーとん」くん・「べいくりん」ちゃん）貸付事業（有償）

新型コロナウイルス感染拡大防止から、予定したイベントが中止となり利用はありませんでした。

(5) 記念グッズの配布（無償）

助成事業等から要望のあった個所へノート、ボールペン&マーカー、着ぐるみシールを配布しましたが、新型コロナウイルスの影響から着ぐるみ利用イベント及びサポート支援要望事業が中止となる中でも、1,030セットを配布しました。

(6) 北海道みなとの文化研究準備室

（一社）寒地港湾空港技術研究センター様の自主研究協力として、道内港湾について港とまちの発展の歴史を整理し、戦前から整備されてきた道内

の重要港湾を対象として、歴史年表の作成を行っています。

2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援

(1)防災エキスパート支援

①令和4年12月9日(金)北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港)認証式(4名)

防災エキスパート研修会は同日の15時からTKPカンファレンスセンターで、当法人の眞田理事長ほか26名が参加して開催され主催者であります北海道開発局鈴木港湾空港部長よりのご挨拶の後、港湾空港部空港・防災課の大黒港湾保安管理官より、防災エキスパート制度についてと港湾空港部からの情報提供が、防災エキスパート鈴木リーダーからは防災エキスパートのこれまでの活動報告がありました。

その後、港湾空港部星空港・防災課長の司会により、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震時に活動した際の事例を元に、事務局との情報共有や防災エキスパート参集の連絡体制、派遣人選などの課題について意見交換を行い、今後の災害発生時における活動体制の改善を進めることとしました。

②令和4年度 室蘭港大規模地震・津波総合防災訓練

令和4年10月8日(土)に北海道開発局港湾空港部、室蘭開発建設部、室蘭市の主催による、「室蘭港大規模地震・津波総合防災訓練」が室蘭港入江地区耐震強化岸壁で開催されました。

16の機関・団体が参加し、当NPO法人からも防災エキスパート4名が参加して「被災状況調査訓練」を担当し、被災した岸壁をテープによる距離測量と、レベルによる水準測量を行い、被災状況を迅速かつ正確に室蘭開発建設部室蘭港湾事務所に報告しました。

3 定款の事業名 活動等に関する情報収集及び調査研究

(1)みなと座談会

新型コロナウイルス感染が拡大している状況から、令和4年内の開催を見送り令和5年2月21日に開催します。

(2)ネットワーク強化

事務局と当NPO法人各支部(札幌・函館・苫小

牧・釧路)とで情報を共有し、事業実施を円滑に進めることを目的に支部長等会議を開催していますが、新型コロナウイルス感染が拡大している状況から中止としました。

(3)情報収集

「みなとオアシス全国協議会事務局」や「北海道市民活動団体情報提供システム」から必要な情報を得ています。

4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業

(1)助成活動

令和4年度は新型コロナウイルスの影響もありましたが、一般の部に6件、特定の部に3件の申請があり申請のあった9件すべてを助成事業の対象としました。

第2号議案(令和4年度収支決算報告並びに監査報告)

第3号議案(令和5年度事業計画)

1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援並びに海洋及び港に係る教育、文化活動及び支援

(1)みなとサポート業務

(2)みなとパネル展

(3)広報誌「伝言板」の発刊、ホームページの充実

(4)着ぐるみ(「ぼーとん」くん・「べいくりん」ちゃん)貸付事業(有償)

(5)記念グッズの配布(無償)

(6)北海道みなとの文化研究準備室から北海道みなとの文化研究室へ

北海道みなとの文化研究準備室は、令和元年6月に当NPO法人内に設立され、北海道内の子供たちに地域のみなとの歴史やまちづくりとの関わりなどについて、楽しみながらその魅力を感じ取ってもらうための方策を探り、そのために有効となるアクションプランを策定することを目的に、総勢13名(令和5年2月現在、理事長、相談役3名を含む)で活動しています。

その活動も3年を過ぎ、本総会以降は名称を「北海道みなとの文化研究室」とし、アクションプランを具現化していくための活動を展開していきます。

2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援

(1)防災エキスパート支援

3 定款の事業名 まちづくりの推進を図る活動等に関する情報収集

(1)みなと座談会

(2)ネットワーク強化

(3)情報収集

4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業

(1)助成活動

第4号議案（令和5年度収支予算計画書）

第5号議案（役員の選任について）

理事及び幹事の全員が令和5年2月25日をもって任期満了となるため。

理事 栗林 定正（再任）

理事 眞田 仁（再任）

理事 岩倉 博文（退任）

理事 蝦名 大也（新任）

理事 藤田 幸洋（再任）

理事 高橋 喜一（再任）

理事 上原 泰正（再任）

理事 百瀬 治（退任）

理事 中村 信之（再任）

理事 栗田 悟（再任）

理事 川合 紀章（再任）

理事 笹島 隆彦（再任）

理事 中島 靖（新任）

理事 大西 育子（再任）

理事 片石 温美（再任）

理事 福岡 康宣（退任）

監事 吉本 靖俊（再任）

監事 中内 勲（再任）

このあと、理事を退任される百瀬治様と福岡康宣様、新任理事となる中島靖様からご挨拶をいただき第20回通常総会が終了しました。

「北海道みなとの文化研究室」の発足について

北海道みなとの文化研究室長 梅沢 信敏

先般、令和5年2月15日開催の総会において、当NPO法人内に「北海道みなとの文化研究室（以下、「本研究室」という。）」を設置することが承認されました。ここでは、本研究室の発足に至る経緯と今後の活動目標について、その概要を報告します。

1. 「北海道みなとの文化研究準備室」の設置と活動内容

令和元年2月、NPO総会後の設立15周年記念祝賀会の場で来賓挨拶に立たれた佐伯浩元北大総長から、他分野の法人では、道内の子供たちへの学習支援を積極的に行っており、港湾分野でもこうした取り組みを当NPO法人で行ってはどうかとのお話がありました。

ご提案を受け、当時の中村前理事長が趣旨に賛同する有志に声がけし、令和元年6月、当NPO法人内に道内の子供たちへの学習支援に関する研究と実践を目的とした準備組織「北海道みなとの文化研究準備室（以下、「準備室」という。）」が設置されました。当時のメンバーは、理事長以下、総勢7名でスタートしました。

道内の子供たちはおそらく地元の港について、ある（存在する）のが当たり前で、特段の関心を持ってはいないのではないかとこの想定のもと、まずは、実態を調べる必要があるとの意見が多く出されまし

た。一方で、「みなとの文化」というのは、もっと幅の広いものであり、始めから子供の教育支援だけに絞るのではなく、港に関係する活動を行っている様々な個人、団体との交流やネットワークを広げていくことも視野に入れるべきではないかとのご意見もあり、準備室の設置趣旨を以下のとおり規定しました。後段の部分を抜粋します。

（前略）令和の新時代を迎え、あらためて「北海道のみなとの文化」を考える時、そこには、北海道のみなとや地域に根ざす民謡から歌謡曲、フォークソングやポップスなど多種多様な歌があり、民話や詩、小説、物語などの文学があり、北前船や北洋漁業などの国内外とのアイヌの時代を含めた交易の歴史があり、さらには、厳寒の地でみなとづくりに技術と情熱を傾けてきた先人たちの努力の結晶もまた、一つの歴史文化と捉えることができるでしょう。

北海道各地に息づく有形、無形のみなとまちに関わりのある財産（お宝）を広く「北海道のみなとの

文化」と定義し、定款第5条(1)③「海洋及び港に係る教育、文化活動及び支援」事業を行うため、新たに本NPO内に「北海道みなとの文化研究準備室」を設置し、みなとの文化に関わる情報収集、企画立案、各種みなと関係の活動団体等との連携・交流の促進を図っていきます。

また、北海道のこれからを担うであろう各地域で暮らし、遊び、学ぶ子供たちは地域の宝です。四面を海に囲まれているこの北海道の港とともに今を生きているということへの感謝と理解と希望の心を育んでもらいたいとの願いを込めて、道内各学校と地元みなと関係企業等との連携により、小学生と教諭のための学習支援に資する活動を行っていきます。

上記の方針を基本に、これまで対面式での会合や共有メールでの意見交換などを行ってきました。その間、港湾分野以外の多様なご経歴を持つ女性メンバー3名が加わるなど、現在は総勢13名で活動を行っています。これまでの活動実績は概ね以下のとおりです。

(1) 小学校社会科副読本の収集・整理

道内の港湾所在地において、現在使用されている小学校の社会科副読本を収集し、その中で地元の港についてどのように記載されているのかについて調査、整理しました。その結果、それぞれの港の取り上げ方に濃淡があり、発展の歴史や建設技術、また、尽力した先人について記述されている副読本がある一方、ほとんど港に関することに触れられていないものも相当数あるということが分かりました。

(2) 社会科副読本の活用と港の関わりについての実態調査

小学校教諭、教育委員会関係者等にアンケートを実施し、社会科副読本の活用実態について調査し、子供たちと地元の港の関わりや課題について調査、

整理しました。その結果、サンプル数は少ないものの授業を受け持つ小学校教諭の多くは、とにかく日々の授業カリキュラムへの対応で精いっぱい、時間的に余裕がないということが再認識されました。例えば、地元の港について総合的な学習で取り上げるとした場合、スケジュール調整のほか、事前学習等の準備や交通手段を含むコース設定、また、施設見学や説明者の確保など、教諭本人にかかる負担が大きく、サポート面での課題も浮き彫りになりました。

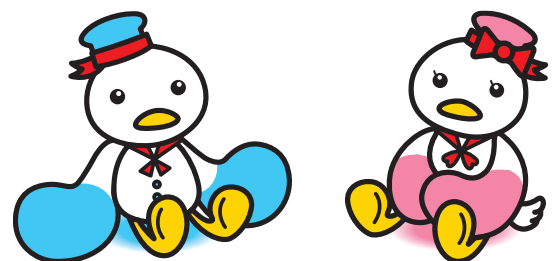
(3) 道内港湾の港とまちの発展の歴史調査

戦前から整備されてきた道内全10港の重要港湾について、港とまちの発展の歴史を整理し、年表として取りまとめました。その結果、各港湾の発展の歴史やまちづくりとの関わりを時系列的に理解することができることと併せて、年代ごとにその時期、他港ではどのような発展状況にあったかについても簡単に比較することができるようになりました。

2. 本研究室の発足と今後の活動目標

上記の準備期間を経て、令和5年総会以降は、名称を「北海道みなとの文化研究室」とし、準備室の設置趣旨（前掲）を引き継ぐとともに、アクションプランを具現化していくための活動を展開していきます。具体的には「(仮称)北海道みなと探検シリーズ」として、小学生向けに北海道各港の魅力を伝えるための小冊子や動画コンテンツの作成、また、一般の方々を対象に、SNSなどを活用したみなとの歴史や文化を紹介する「(仮称)北海道みなとまち通信」を作成し、配信等を行っていきます。

本活動に興味を持たれ、一緒に活動してみたいというNPO会員の方がおられましたら、本研究室メンバーのどなたでも構いませんので、是非ご一報ください。メンバー一同、心よりお待ちしております。



第17回 みなと座談会

当機構は平成16年度から、みなとまちの地域づくりについて考える「みなと座談会」を女性の視点から考え活動している「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」と共催し、各地域で意見交換会を開催しています。

1回目の函館市から始まり、釧路、室蘭、稚内、広尾、留萌、苫小牧、函館、室蘭、紋別、釧路、札幌、稚内、室蘭、留萌、苫小牧と開催してきましたが、新型コロナウイルスにより中止となり、3年ぶりに令和5年2月21日(火)に午後3時からの、北海道みなとまちづくり女性ネットワーク総会(活動報告)に続き、午後3時30分からTKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前で開催しました。

座談会テーマ

今年度は「女性ネットワークの仲間づくりや情報発信について」をテーマに、全道各地で活躍されている女性ネットワークの方々と、北海道開発局港湾空港部港湾計画課の行政関係者を交え、女性ネットワークが抱える課題や仲間づくりと情報発信などについて意見交換をしました。

座談会参加者

司会

- NPO 法人北海道みなとの文化振興機構
理事長 眞田 仁
- 北海道みなとまちづくり女性ネットワーク
北海道みなとまちづくり女性ネットワーク
会長 大西 育子
- 女性みなと街づくり苫小牧 代表 大西 育子
清水志津子
- みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭
代表 立野 了子
事務局長 伊藤 京香
関根 久子
- みなとまちづくり女性ネットワーク函館
代表 折谷久美子
- 留萌みなとまちづくり女性ネットワーク
代表 菅原千鶴子
- 稚内のみなとを考える女性ネットワーク
代表 岩本 明子
事務局 栃木 潤子
幹事 川口ひろみ
- みなとまちづくり女性ネットワーク・オホーツク
代表 竹内 珠己
会計 浅水 裕子

NPO 法人マリネットワーク

理事長 片石 温美

行政機関

北海道開発局港湾空港部港湾計画課

課長 早川 哲也

港湾企画官 古屋 武志

計画第1係長 竹部 公章

新エネルギー活用推進係長 水木健太郎

計画第1係員 曾根原真秀

事務局

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構

みなとの文化研究室長 梅沢 信敏

事務局長 秋葉 洋一

座談会概要

始めに、主催者を代表して当機構眞田理事長から、「女性ネットワークの仲間づくりや情報発信について忌憚のない意見を出していただき、参考にして地元で生かしていただければ」とのご挨拶がありました。

来賓の北海道開発局港湾空港部港湾計画課長早川哲也様から、「この座談会の討論をきっかけにさらなる10年を目指せたらと思っています。コロナでイベントも縮小、中止なりましたが、クルーズ



来賓挨拶 早川港湾計画課長

船も昨年から日本船が復活し、今年3月から外国船も入ってきますので、今年本格的に再開になると思われますので、まさに皆さんの出番と思っています。みなを中心地域を盛り上げていきますのでよろしくお願いたします。」とのご挨拶がありました。

座談会は眞田理事長の司会により、討論メモの説明から始められました。

討論テーマは女性ネットワークの仲間づくりと情報発信で、討論メモにより女性ネットワークの現状を確認し、女性ネットワークの抱える課題について意見交換を行い、最後に仲間づくりと情報発信について議論しました。

まず、女性ネットワークの現状として、各活動地域メンバーの年齢構成が紹介され、50歳未満が15%、50歳代が23%、60歳代が28%、70歳以上が34%と若い世代が少ないとの報告がありました。

次に各女性ネットワークの活動形態として、女性ネットワーク自らが主宰しているイベント、みなとオアシス協議会などが主催するイベントに参加している事業、行政の活動に参加している事業が紹介されました。

また、活動資金については行政（北海道開発局、市役所）からの支援、NPO法人みなとの文化振興機構、(一社)寒地港湾空港技術研究センター、(一社)ウオーターフロント協会などからの助成金により事業を継続してきていることが報告されました。

次に女性ネットワークが抱える課題についての議論に入る前に、全国のNPO法人の団体活動の問題点についてのアンケート結果で、共通の問題は「資金不足」、「人材不足」、「活動のマンネリ化」などで、NPO代表者の約60%が65歳以上で、世代交代に係る悩みを抱えており、一方で代表者に対する地域の期待や負荷も大きいことが紹介されました。

これらを踏まえて活動メンバーと体制の実態を見

たときに、メンバーの高齢化等により活動に制限があるのではないか、子育てが終了しても介護などの問題が出てきて活動に参加できない家庭の事情や、社会の事情が指摘されました。

一方で、「北海道は全国の中でもみなとまちづくりが盛んな地域でもあるが、なかなか活動が思うようにできないことがあるのでは」とか、新しい人に加わってもらうことに異論のある人はいないと思われるが、地域で最近新しい人が入ってきたきっかけをお聞きました。

(苫小牧 大西代表)

清水さんはみなとのイベントに夫婦でよく参加されていて、こちらから声掛けした。

会員の一本釣りのスカウトには限界があり、商工会議所や漁協女性部などと連携している。

(苫小牧 清水さん)

クルーズ船が好きで、おもてなし活動もできるとのことで参加。

親の介護の傍ら活動しているがやりがいはある。

(オホーツク 竹内代表)

皆それぞれに事情を抱えて活動している。

今年度、イベント開催時に包括支援センターの若手職員4人が女性NWに入会した。

(函館 折谷代表)

今年度、名古屋からの60代の移住者が入会した。

クルーズのおもてなし活動などによく顔を出していたので、こちらから声掛けした。

(室蘭 立野代表)

室蘭港の観光船船長でもある、若いママの伊藤さんが事務局長として頑張ってくれている。

(室蘭 伊藤事務局長)

高校生の時に音楽教室先生の立野代表と片石さんに誘われた。

家族は全面的にバックアップしてくれているし、

女性NWは全国、全道とのつながりができ充実感がある。

(稚内 岩本代表)

会員は6名と少ないが、今年度川口さんが参加してくれた。

(稚内 川口幹事)

尊敬する方が女性NWの副会長をしており、力になりたいと参加した。

少人数で驚いたがイベントを行うと充実感がある。



第17回 みなと座談会

次に活動形態と活動資金について確認したところ、年会費は各地域ごとに異なり苫小牧は3千円、室蘭、函館、稚内、オホーツクは千円、留萌は無料。

イベントなどの活動資金は、市役所への要請や各種団体の助成事業、企業の協賛金などで対応している。

稚内ではキッチンカーの出店など、自分たちで運営資金を生み出す努力もしていることが報告されました。

みなとオアシス運営協議会との協働については、留萌の菅原代表より「みなとオアシスるもい設立以前は活動資金が無くやりたい活動があっても諦めていた。活動実施には熱量と財源が必要」との発言がありました。

眞田理事長から「各地域でそれぞれ事情があり、次回のオアシス協議会のテーマとしても良いのでは」との意見がありました。

最後に情報発信と仲間づくりについて議論され、イベントの実施は大変だが終了後の充実感が大きいし、参加団体も協力的になったとの、稚内や室蘭からの報告がありました。

早川課長からは、「女性ネットワークはこれからも好きなことを楽しく活動してもらうのが良いと考えている。開発局として女性職員も増えてきており、来年度に何らかのコラボができないか検討して

いる」とのお話がありました。

眞田理事長より、「賛助会員として男性の参画についても検討しても良いのでは」との意見に対してオホーツク代表の竹内さんより、「すでに男性の賛助会員がいて資金面での支援にも大変助かっている」とのことでした。

片石理事長からは、「全国でも活動が続いているのは北海道だけで、楽しく活動しているとかつての参加者の子供が会員になるような動きも出ている」とお話がありました。

みなとの文化研究室の梅沢室長より、「女性ネットワークの方々は地元の文化や食について詳しいので、みなとの文化研究室メンバーが訪問した際にはいろいろ教えていただきたい。また、単に活動の継承だけではなく、20年間活動を継続できた運営のノウハウや人脈の継承をとりまとめて、誰が見ても活動を継承できるツールづくりをしてみてもは」と話されました。

最後に眞田理事長より、「今回の座談会で結論は出ると思っていないので、今年度もう一度開催して意見交換を考えていますので、よろしく願います」と締めくくられみなと座談会を終了しました。

北海道開発局防災エキスパート (港湾・空港・漁港)

○新規登録者認証式

令和4年12月9日(金)北海道開発局港湾空港部長室において防災エキスパート新規登録者認証式が行われました。

今年度は4名の方が港湾空港部幹部、農業水産部水産課長と当NPO法人眞田理事長が立会の中、鈴木徹港湾空港部長より登録通知証の交付を受けました。

これにより今年度の防災エキスパート登録者は32名となり、今後本体制で活動していくことになります。

○防災エキスパート研修会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2、3年と開催を見送っていた北海道開発局研修会は新規登録者認証式の後、TKP札幌駅カンファレンスセンターで27名が参加し開催されました。

鈴木港湾空港部長のあいさつの後、空港・防災課の大黒港湾保安管理官より「防災エキスパート制度について」、鈴木防災エキスパートリーダーより「防災エキスパート活動報告ほか」、大黒港湾保安管理官より「港湾空港部からの情報提供(被災状況把握の高度化、全国で発生した近年の災害事例)」の講習の後、星空港・防災課長の司会により「防災エキスパートについての意見交換」が行われ、発災時における防災エキスパートの出動態勢等について活発に意見交換されました。



防災エキスパート新規登録



防災エキスパート研修会

「着ぐるみ貸付事業」の紹介 (みなとのマスコット「ぼーとん」くん、「べいくりん」ちゃん)

北海道のみなとのキャラクター「ぼーとん」くん、「べいくりん」ちゃんの着ぐるみは、みなとが担う役割を多くの皆様にご理解いただくとともに、海やみなとに集う皆様が楽しく過ごしていただくお手伝いキャラクターとして制作しました。海の上を自由に謳歌するかもめを題材に「小さな赤ちゃんかもめ」をイメージした可愛い着ぐるみです。

平成11年に1号を制作し、好評を得たことから2号、3号と制作、平成25年に4号を制作、現在4

組を保有しています。

令和3、4年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いイベントが中止され利用はありませんでしたが、感染症対策の緩和された今年は盛大にイベントが開催され多くの皆様にご利用いただけることを期待しています。なお、「ぼーとん」くん、「べいくりん」ちゃんは、NPO法人北海道みなとの文化振興機構が商標登録しており、着ぐるみの使用は有料とさせていただきます。



みなとまち活性化イベントへの助成事業の募集について

NPO 法人「北海道みなとの文化振興機構」では、道内のみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等、みなとまちで実施される様々な事業を支援し、さらなる「みなとまちの活性化」に寄与することを目的に助成事業の募集を行います。令和5年度の助成事業応募要領は下記のとおりです。

助成事業募集要領

(1)応募要件

道内でみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等において令和5年度に実施予定の本助成を希望する事業とする。

- ①みなとへの理解と利用促進に係る広報・体験学習活動
- ②海岸・みなとの清掃、植樹等の美化活動
- ③海洋及びみなとに係る教育、文化活動

(2)募集期間および応募方法

募集期間は令和5年4月3日(月)から5月8日(月)までとし、助成を希望する団体は必要事項を記入の上、別途応募様式を提出する。

(3)助成金額

1件当たり助成金額は15万円を限度とし、みなとの活性化の効果の大きいと考えられる数件を選定する。

(4)評価審査委員会の設置

応募された助成希望の事業について、審査を行う機関として設置する。

評価審査委員会は当 NPO 法人理事長の指名により構成する。

評価審査委員会の事務は当 NPO 法人事務局が行う。

評価審査委員会は令和5年5月中旬を目途に開催し、助成を希望する事業について審査し、採択する。

審査結果については、5月下旬を目途に郵送で通知する。また、当 NPO 法人のホームページ上で公表する。

(5)助成金の支払い

助成金については、助成を受ける団体等に対し、イベント等の開催の2週間前までに支払う。

(6)助成を受ける団体の義務

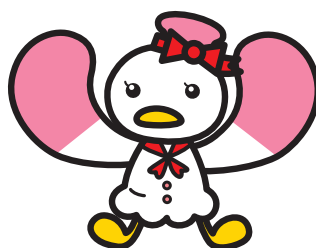
活動を実施するにあたって、「NPO 北海道みなとの文化振興機構助成」をうけている旨を明示すること。

(7)報告

実施結果については、実施後速やかに別途報告様式により提出する。



ぽーとん



べいくりん

応募様式

令和 5年 月 日

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 御中

団体名
代表者名

令和5年度 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成事業に応募します。

1 事業名	
2 事業の目的	
3 事業の内容と課題等	
4 共催団体および支援団体	
5 開催場所	
6 開催日時	
7 総予算額(見込み)、本助成金の要望金額および内容	
8 スタッフ人数	
9 参加者見込み人数	
10 過去の開催実績	

報告様式

令和 年 月 日

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 御中

団体名
代表者名

令和5年度 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成事業により、下記のとおり事業を実施しましたので報告します。

1 事業名	
2 事業の内容	
3 共催団体および支援団体等	
4 開催場所	
5 開催日時	
6 スタッフ人数	
7 参加者人数	
8 総支出額、本助成金の使用内容	

※実施状況のわかる写真を添付



令和5年度 役員・事務局・支部体制

令和5年度「特定非営利法人北海道みなとの文化振興機構」役員・事務局・支部体制について

(敬称略)

役員

役職	氏名
会長	栗林定正
理事長	眞田仁
理事	蝦名大也
理事	藤田幸洋
理事	高橋喜一
理事	上原泰正
理事	中村信之
理事	栗田悟
理事	川合紀章
理事	笹島隆彦
理事	中島靖
理事	大西育子
理事	片石温美
監事	吉本靖俊
監事	中内勲

事務局

役職	氏名
事務局長	秋葉洋一
事務局次長	斉藤賢悦
事務局次長	大前豊
事務局次長	高木哲夫
事務局次長	宮部秀一
事務局次長	渥美洋一
事務局次長	鈴木一行
事務局次長	秋浜政弘
事務局次長	石川洋一
事務局次長	上川功一
事務局次長	飯田誠
事務局次長	平尾利文

支部

役職	氏名
札幌支部長	千葉不二夫
札幌支部次長	今林弘
函館支部長	川村求
函館支部次長	鈴木勝晴
苫小牧支部長	秋葉洋一
釧路支部長	佐藤浩彰
釧路支部次長	伊藤文彦

事務局連絡方法

当機構事務局への連絡は、下記のいずれかをお願いします。

Tel : 011-727-3710 Fax : 011-727-3710 E-mail : bunka-npo@kanchi.or.jp

なお、事務局は、常駐体制でないことから、ご返事を差し上げるまで一週間程お時間をいただくこともございますので、何卒ご了承をお願いします。

また、当機構の活動状況は、ホームページでご覧になることができます。

<http://www.minatobunka-npo.info/>

特定非営利活動法人 北海道みなとの文化振興機構

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号
セントラル札幌北ビル5F